

# Berlin Report

August 2019

## CONTENTS

- \* Project 1: James-Simon-Galerie / visitor center, café, gallery
- \* Project 2: AMO by AMANO / hotel

## 1. James-Simon-Galerie

### Project Overview

1999年にユネスコの世界遺産に登録されたベルリンの「博物館島」。1830年から1930年にかけて作られた5つの博物館、美術館がシュプレー川に浮かぶ中州の上に集まる、ベルリンきっての観光地である。

1990年に東西ドイツが再統一し、再び首都となったベルリンでは、1993年から博物館島の大規模な修復と改装、そして新たなエントランスなどを含む「マスタープラン」が進められてきたのだが、今年7月ついにその最後の一角である「ジェームズ・ジーモン・ギャラリー」が完成し、その門戸を開いた。

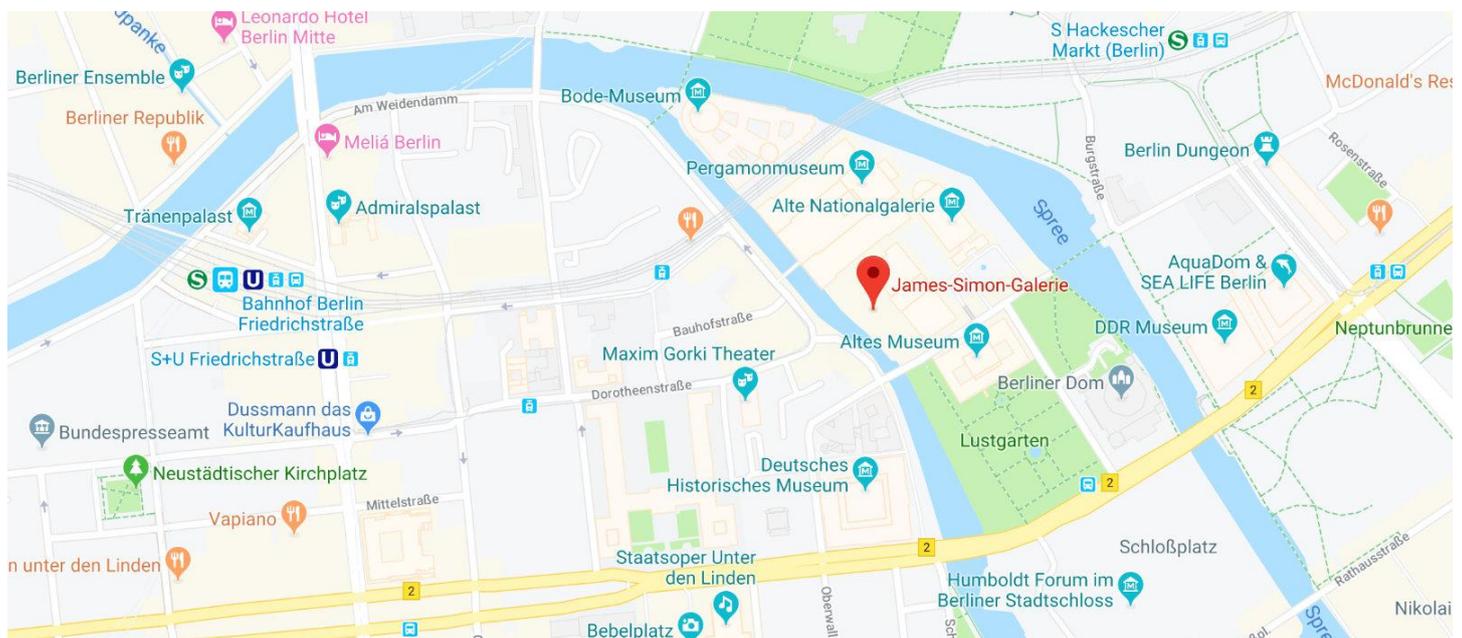
デヴィッド・チップパーフィールドが手がけた建物は、全ての博物館島をつなぐエントランスやクロック、カフェなどの機能を果たす。計画当初、チップパーフィールドの建築案はモダンすぎて歴史ある博物館島に合わないのではないかと大きな批判にさらされた。博物館島からの希望はただ一つ「新たな神殿」。それを聞いたチップパーフィールドは、さらさらと紙ナプキンの上に新たなスケッチを描き始めたという。それをもとに完成したのが、コンクリートのソリッドな柱が連なる様子が、神殿の列柱を思わせるミニマルな建築。隣接する新博物館や旧博物館の建築様式ともリンクする。内部にもこのコロネードのモチーフが幾度も現れ、印象的だ。

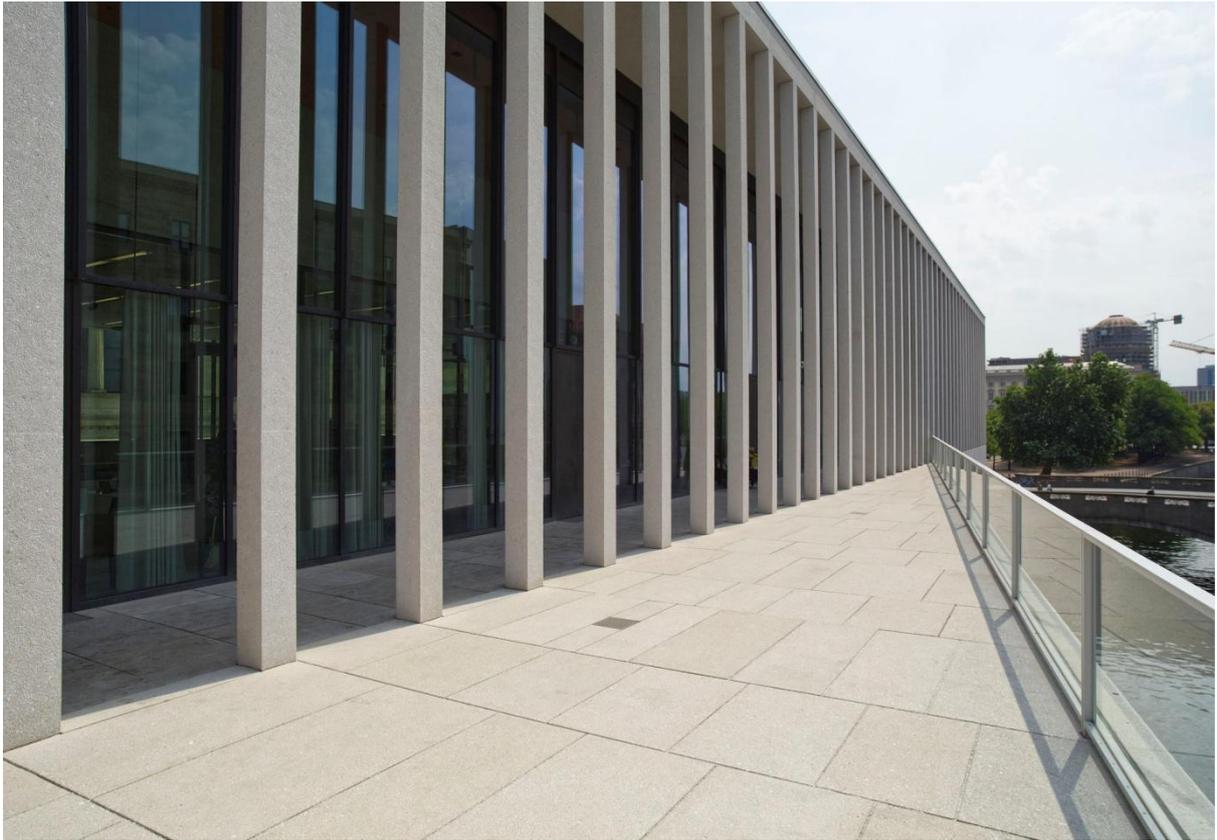
ペルガモン博物館は外から、そして新博物館、旧美術館とボーデ美術館は地下を通る遊歩道を経由してつなぐ作り。内部もコンクリート打ちっ放しだが、ウォールナット材や銅、ブロンズなどの温かみのある素材を取り入れることで、柔らかく居心地の良い空間を作り出すことに成功している。

### Project Details

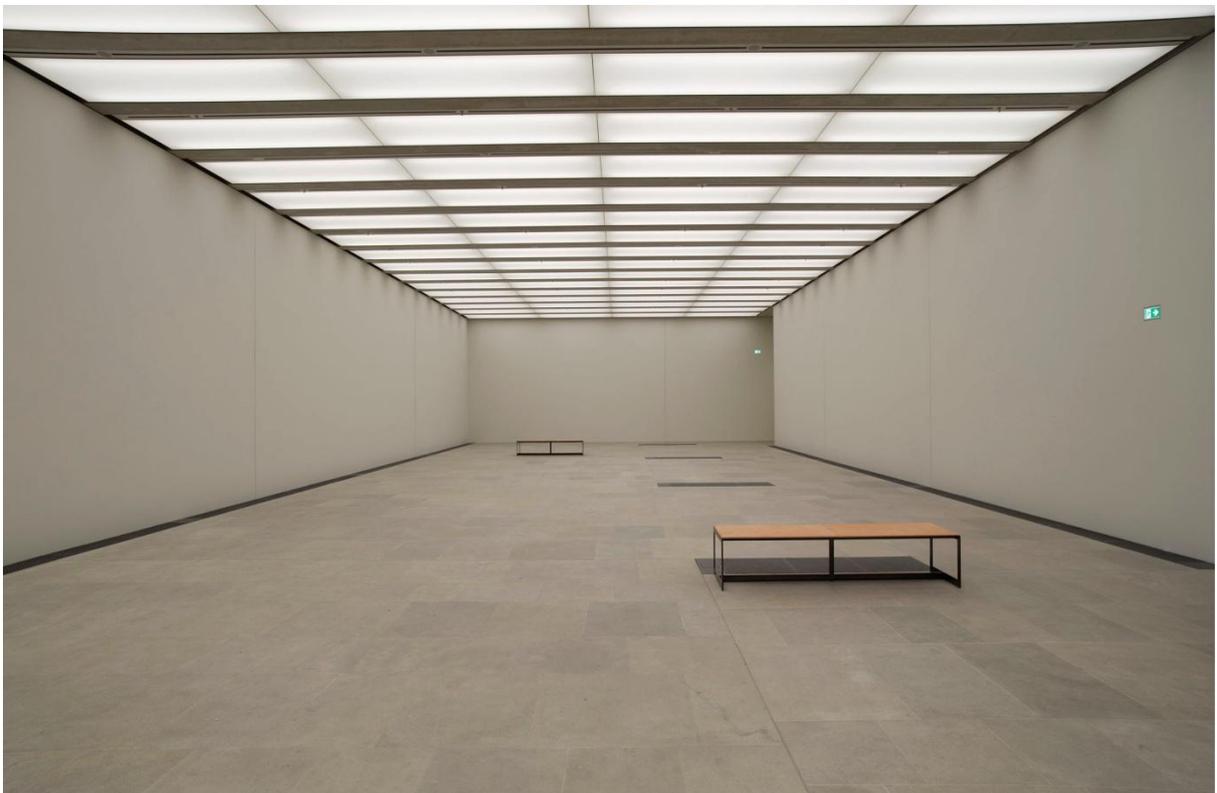
1. Type of Business : Visitor Center, Café, Gallery
2. Open Date: 12/07/2019
3. Location: Bodestrasse , 10178 Berlin
4. Size: 4600 m2
5. Architect: David Chipperfield Architects Berlin

### Location Map





9メートルの高さのガラス張りの壁に四角い柱が連なるように覆うファサードは、隣接するペルガモン博物館の重厚な神殿のような外観と好対照をなす。



企画展を予定しているギャラリー空間。

天井の明かりとりにもコロネードの様式が繰り返される。家具もミニマルなデザインだが、マテリアルで柔らかい印象を与える。



新博物館へと続く地下の遊歩道。大きなガラス窓から自然光が差し込み、柱の影がコンクリート空間にアクセントを与える。埋め込み式の照明や展示ボックスにも同じリズムを取り入れた。冷たい印象を与えないよう天井には素材感のある銅板を張っている。

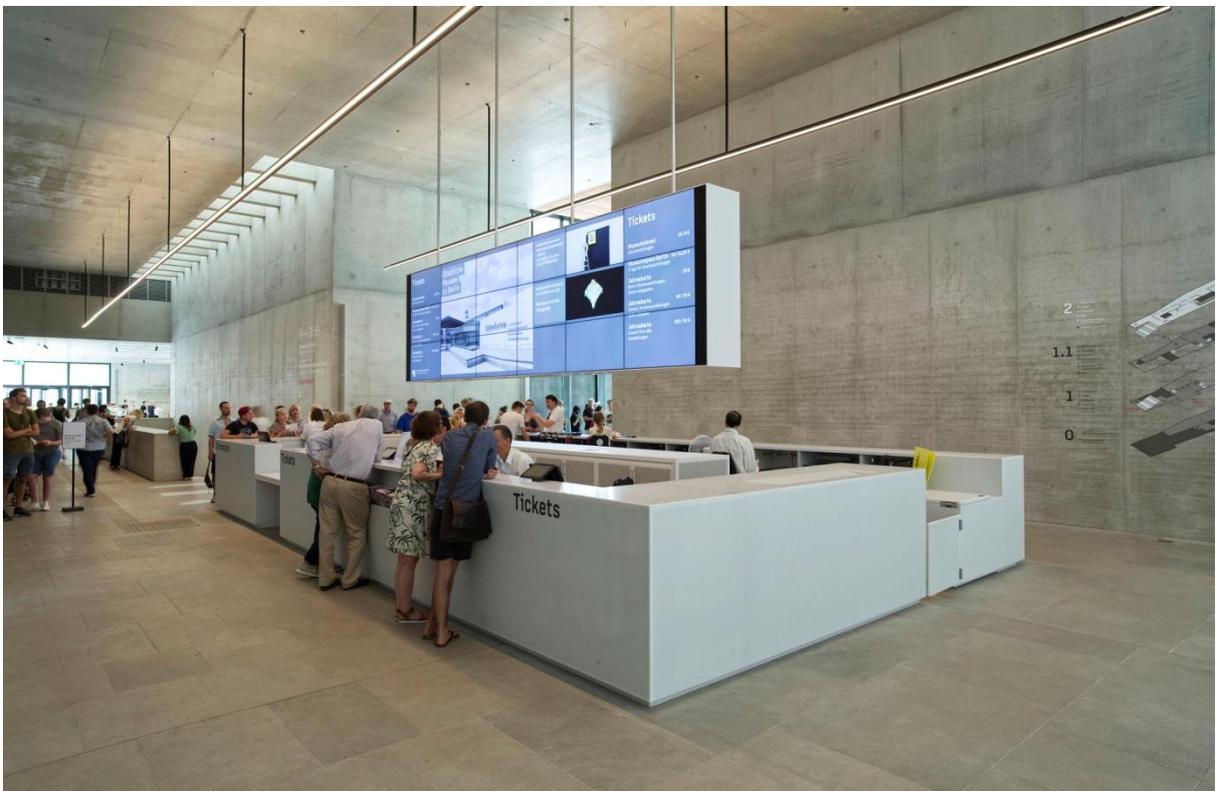


天井の銅板をフラワーベースや食器にも呼応させたカフェ「Cu29」。店名にも銅の原子番号を取り入れている。



チップーフールドの建築のシグニチャー的な存在である巨大な階段。

各ミュージアムへ続くエントランス部分。吹き抜けと奥の大きなガラス窓が、閉鎖的な印象を和らげている。



これまではキャパシティオーバーで、常に行列が絶えず、博物館島を訪れる来場者から不満が集まっていたチケットカウンター。より多く、また待つ間もストレスが軽減されるよう空間を広く取り、自然光を様々な角度から取り入れるような作りとなっている。

## 2. AMO by Amano Hotel

### Project Overview

ドイツには、Denkmalschutz（文化財保護）の法律があり、築100年を超える建築は、リフォームや修復に様々な規制が設けられている。もちろん取り壊すことも簡単ではないため、都市部にある残った土地は限られており、ドイツの建築家たちは、常に古い建物をいかにリフォームするかという問題に頭を悩ますことになる。

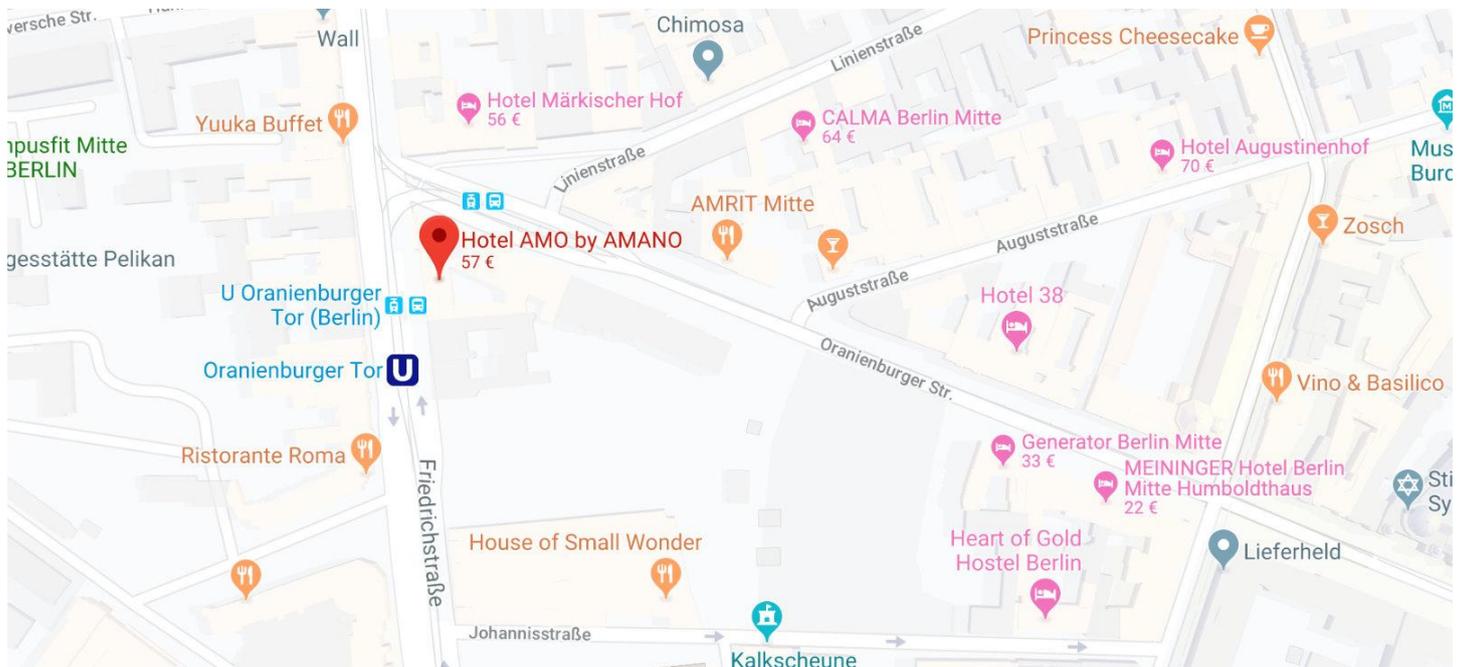
ベルリン、ミッテ地区に新たにオープンした「AMO by Amano Hotel」はその問題を新しい形で解決した好例と言えるだろう。築100年以上のアパートをホテルにリフォームするにあたり、必要となるレセプションやロビー、朝食ルームといった空間を既存の空間を利用することは難しかったため、全てを地下につくることにしたのだ。

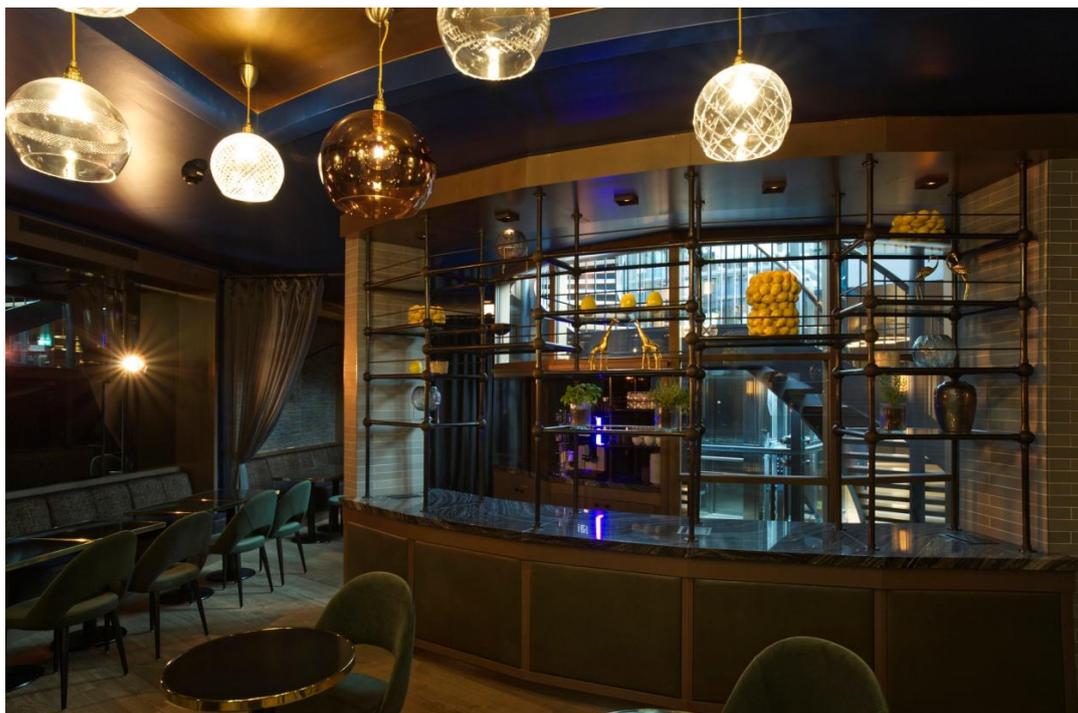
路面電車や地下鉄が走る大通りに面した部分には、小さな入り口があるだけで、宿泊客は中庭にあるエレベーターと階段で地下のレセプションへと誘導される。レセプションにあるバーは、螺旋階段とエレベーターの作りをグラフィカルに取り入れたインテリアに。

部屋のインテリアは、全館を通じて廊下や壁にも取り入れている深いブルーをキーカラーに、歴史的な建物らしさを感じさせるモザイクフローリングをデスクに生かすなどの工夫を凝らしている。

### Project Details

1. Type of Business : Hotel
2. Open Date: 13/06/2019
3. Location: Friedrichstrasse 113, 10117 Berlin
4. Size: 93 rooms
5. Interior Designer: ST Design





レセプションに併設されたバー。ガラス張りのエレベーターから差し込む外光と螺旋階段の形をインテリアに取り入れている。

地下へと続くエレベーターはアパートの中庭部分を生かした。

隣接する建物に影響を与えることなく基礎部分よりも深い位置に空間を作る作業は難しく、掘り進めるだけで1年もの期間を要した。



客室のインテリアは、モザイクタイルを生かしたデスクが印象的。